

2022年度 第1回「教育コンテンツ提案」ワーキンググループ 議事録

開催日時:2022年7月22日(金)13:00~14:30

場 所:ZOOM 会議(オンライン)

参加者:総計12名

大学・・・7校11名(7月22日に5校7名、別日にて事前確認2校4名含む)

大学コンソーシアムひょうご神戸事務局・・・1名

【議事】

1. 各参加校からの自己紹介

開催にあたり、グループ長の挨拶がなされた後、各参加者から自己紹介が行われた。

2. アンケート結果の報告

事前に会員校に対して調査を行ったアンケート結果(別紙資料)について、グループ長から報告を行った。

3. 課題の共有

コロナ初期、ウィズコロナ、ポストコロナに時期を分け、それぞれの時期において各参加校でうかがえた課題について情報交換を行った。

◎コロナ初期(緊急事態宣言下~2020年春学期(前期))

- ・ 職員は、学生に対するサポートに、教員は、教材の準備に苦慮した時期。
- ・ 学生は、意思に関わらず来学できなかった時期でもある。
- ・ 学校によって、ゼミは対面実施を再開するところも出るが、講義はオンラインでの実施が中心。
- ・ 非対面授業で使用したアプリは Zoom や Microsoft Teams が多い。各大学の LMS の活用を含め試行錯誤が続いた。
- ・ オンライン授業の導入においては、学生への支援が各大学でなされた。
- ・ 学生の方が Zoom には慣れていくスピードは速かった。
- ・ 当初は、早く対面に復帰すると思っていたが、学生もオンラインでの受講に慣れていった。
- ・ 一方、教員の立場から見ると、非対面授業のほうが対面よりも資料準備の時間が余計にかかることになった。
- ・ 教員(の ICT スキル)によって、オンライン授業の質に差が出ることになった。

◎ウィズコロナ(2020年秋学期(後期)~2021年度末)

- ・ コロナの「波」のなかで、対面と非対面(オンライン)の両面での教育が続く時期。
- ・ 非対面授業では、対面と違い、学生の反応がわからないため、もどかしい部分がある。
- ・ 一方で、非対面授業ならではのメリットも見え始めた。資料提示型は、繰り返し映像を視聴できるなど、しっかり復習ができるため、学びを深める側面がある。
- ・ ハイブリッド(ハイフレックス)形式の授業は、(ソフト・ハード両面で)体制を整えないと授業運営は難しい側面がある。
- ・ この時期においても、参加大学すべてにおいて、オンライン授業の評価ガイドラインはなかった(各教員のICTスキルに頼る面が大きい)。
- ・ 授業の質保証に課題。

◎ポストコロナ(2022年度春学期(前期)~)

- ・ 原則対面授業の形式に戻ったが、オンラインという選択肢が生まれたことにより変化が生まれている。
- ・ この状況に即した(オンライン教材を提供できる)体制・設備を大学側が整えていく必要がある。
- ・ 一部の参加大学ではオンデマンド型授業が、緊急避難的なものでなく、正式な科目として運用されるようになりつつある。
- ・ 原則対面授業の形式になる中、配慮学生以外に個人的理由でオンラインの受講希望の対応はどうか。線引きの難しさが生まれている。

以上、管理者的視点、当事者的視点から様々な意見があった。

第2回ワーキングは、10月~11月を予定し、改めて調整することとなった。

以上